

「(仮称)宮城西部風力発電事業 計画段階環境配慮書」に対する9月17日技術審査会の指摘事項と事業者回答(1/5)

項目	審査会当日意見 (※Pは方法書のページ番号)	文書意見	事業者回答 (※Pは添付資料ページ番号)
全般的事項	①図書に掲載する図面については、環境影響への配慮に関する検討に支障が生じないよう縮尺の設定、印刷時の解像度等の工夫をすること。 【平野会長】		図書に掲載する図面については、環境影響への配慮に関する検討に支障が生じないよう必要に応じて拡大図(分割図を作成するなど縮尺の設定を変更)を作成するなどいたします。
	②過去に地すべりが多く発生した場所であることを念頭に置き、特に工事用道路、管理用道路の設置に関して慎重に対応すること。 【平野会長】		工事用道路、管理用道路の設置等の検討に当たっては、関係機関との協議を踏まえ、重大な影響が及びうると判断した場合には、改変区域から除外し、環境影響を回避または極力低減できるよう、取り組んでまいりたいと考えております。
	③環境影響をなるべく低減できるよう想定区域の適切な絞り込みを検討すること。 【平野会長】		対象事業実施区域及び風力発電機設置予定位置の絞り込みに当たっては、環境影響をなるべく低減できるよう適切な絞り込みを行います。
	④想定区域は自然が豊かな場所であるということを認識した上で、特に動物関係、植物関係の調査項目を適切に設定し、調査、予測及び評価すること。 【平野会長】		事業実施による動物、植物及び生態系に関し適切な予測・評価を行い、その保全に配慮いたします。
	⑤近隣に他の風力発電事業が計画されていることから、後発の事業者が複合影響についてより配慮しなければならない立場であることを認識し、適切に調査、予測及び評価すること。 【山本委員】 P. 30		本事業との累積的な環境影響が懸念される(仮称)宮城山形北部風力発電事業については、今後、環境影響評価図書等の公開情報の収集や当該事業者との情報交換等に努め、累積的な環境影響について適切な予測及び評価を行います。
地形・地質	①自然景観資源である二ツ石川は峡谷・溪谷として重要な地形であるため、その影響について十分配慮すること。 【伊藤委員】 P. 51~P. 56		資材搬入ルートである二ツ石川沿いの林道(舗装道路)は、幅員8m程度あることから、輸送時に林道を覆う樹木の枝払いをする可能性はありますが、基本的には現況林道をそのまま利用する計画です。
	②保安林、特に土砂流出防備保安林を想定区域から除外すること。 【伊藤委員】 P. 187		土砂流出防備保安林は、風力発電機設置位置から除外いたします。

「(仮称)宮城西部風力発電事業 計画段階環境配慮書」に対する9月17日技術審査会の指摘事項と事業者回答(2/5)

項目	審査会当日意見 (※Pは方法書のページ番号)	文書意見	事業者回答 (※Pは添付資料ページ番号)
地形・地質	③砂防指定地及びその上流域を想定区域から除外すること。 【伊藤委員】P.188		砂防指定地は、風力発電機設置位置から除外いたします。また、その上流域は、関係機関との協議を踏まえ、重大な影響が及びうると判断した場合には、改変区域あるいは対象事業実施区域から適切な範囲を除外し、環境影響を回避または極力低減できるよう、取り組んでまいりたいと考えております。
	④土砂災害警戒区域(地すべり)及びその周辺の大規模な改変は避けること。 【伊藤委員】P.189		土砂災害警戒区域(地すべり)は、風力発電機設置位置から除外いたします。
	⑤地すべり地をできるだけ除外し、改変を行う場合には下流域への影響を十分に検討すること。 【伊藤委員】P.191		地すべり地形に関しましては、関係機関との協議を踏まえ、重大な影響が及びうると判断した場合には、改変区域あるいは対象事業実施区域から適切な範囲を除外し、環境影響を回避または極力低減できるよう、取り組んでまいりたいと考えております。
動物	①想定区域付近に第二種特定鳥獣として管理されているニホンザルが生息しているため、留意すること。 【由井委員】		現地調査の際は、ニホンザルの生息に留意して実施します。
	②想定区域西側の取付道路近傍に南奥羽山系カモシカ保護地区があるので留意すること。 【由井委員】		現地調査の際は、カモシカの生息に留意して実施します。
	③二ツ石ダムにはマガンやハクチョウなどの水鳥や水鳥を狙うオジロワシ等の猛禽類が飛来することが想定される。これら鳥類の移動ルート及び移動標高を適切に調査すること。 【由井委員】		二ツ石ダムを利用するガンカモ類やオジロワシ等の猛禽類の飛来状況(移動ルートや飛翔高度)が把握できるように適切に調査を実施します。
	④ウトウ沼及びウド沼の周辺には、オオジシギやヒクイナ、ヨシゴイ類等の稀少な鳥類が多く生息している可能性があるため、それらの種の生息実態と飛翔高度等を適切に調査すること。 【由井委員】		ウトウ沼及びウド沼周辺に生息する可能性が高いオオジシギやヒクイナ、ヨシゴイ等の生息を確認するため、現地調査を実施し、生息が確認された場合は、生息状況や飛翔高度等の記録を行います。

「(仮称)宮城西部風力発電事業 計画段階環境配慮書」に対する 9 月 17 日技術審査会の指摘事項と事業者回答 (3/5)

項目	審査会当日意見 (※P は方法書のページ番号)	文書意見	事業者回答 (※P は添付資料ページ番号)
動物	⑤専門家ヒアリングについては、鳥類やコウモリ等の飛翔性の動物に限らず実施すること。 【太田委員】' P. 219-P. 221		専門家ヒアリングについては、鳥類、コウモリ類の専門家に、昆虫類、植物の専門家も加えて実施します。
	⑥工事用車両の通行による地上性の動物の轢死についての影響を調査、予測及び評価すること。 【太田委員】		現地調査の結果から道路上を横断利用する種について整理を行い、ロードキルの可能性について検討を行います。
	⑦両生類の重要種であるキタオウシュウサンショウウオが欠落しているため、動物の重要な種について文献を再精査すること。 【太田委員】 P. 211		配慮書段階でハコネサンショウウオとしていた種については、キタオウシュウサンショウウオの修正致します。また、その他の動物の重要種についても再度精査いたします。
植物	①非常に重要な植物の生育地であるウトウ沼及びウド沼に対する影響をより回避するため、集水域を踏まえて、より離隔を取った上での開発を検討すること。特に、ウトウ沼近傍の二ツ石川西側の搬入路については、東側のルートから迂回する等改変を回避すること。 【平野会長，伊藤委員，牧委員，野口委員】		ウド沼については、対象事業実施区域から除外し、集水域を踏まえて極力離隔をとることとしました。また、ウトウ沼近傍の二ツ石川西側の既存道路の沿道については、改変しないことを前提に搬入路としての利用の検討を行います。
景観	①SNS 等によく写真が撮られている場所を分析し、視点場を 10 地点程度設定し、風車が映り込まないように検討すること。 【平野会長】		薬菜山、二ツ石ダム及び加美町の紅葉について、インターネット上の情報を含む既存資料について調査し、風力発電機の可視領域を踏まえ、加美町と協議した上で主要な眺望点を選定します。
	②送電鉄塔の基準を景観評価に使うと過小評価となるため、このことを理解した上で送電鉄塔の基準を準用すること。風車は誘目性があるため、より安全側に立って方法書を作成すること。 【平野会長】 P. 257		送電鉄塔の基準の他、配慮書 p257 第 4.3-22 表に示した「鉄塔の見え方と風車の見え方との比較(参考)」も踏まえ予測・評価を行います。また、誘目性を考慮するため、主要な眺望点の数箇所については、フォトモンタージュだけでなく動画も作成します。

「(仮称)宮城西部風力発電事業 計画段階環境配慮書」に対する9月17日技術審査会の指摘事項と事業者回答(4/5)

項目	審査会当日意見 (※Pは方法書のページ番号)	文書意見	事業者回答 (※Pは添付資料ページ番号)
景観	③田代高原キャンプ場は想定区域に隣接し、景観上影響が大きいと予測されるため、対応を検討すること。 【平野会長】		田代高原キャンプ場は、樹林の中のキャンプ場のため、風車設置の影響をフォトモンタージュだけでなく動画も作成します。 また、キャンプ場へのトイレ設置など、キャンプ場の利便性向上に関し、協力できるか検討を行います。
	④視点場の設定に当たっては、主要な眺望方向を併せて表記すること。 【平野会長】		視点場の設定に当たっては、主要な眺望方向を示します。
	⑤人と自然との触れ合いの活動の場を視点場とする場合、地形的に開けて皆が見る向きに十分留意し、調査、予測及び評価すること。 【平野会長】		人と自然との触れ合いの活動の場を視点場とする場合は、地形的に開けて多くの方が見る向きに十分留意し、調査、予測及び評価をいたします。
	⑥加美町と相談した上で、主要な箇所(3箇所程度)についてはアニメーションを作成し、景観への影響を評価すること。 【平野会長】		加美町と相談した上で、主要な眺望点(3箇所程度)についてアニメーションを作成し、審査会及び住民説明会等において説明を行います。
	⑦囲繞景観の定点を増やすこと。 【山本委員】		囲繞景観として、対象事業実施区域近傍の旭地区は、切込焼記念館及び澄川橋の2地点、二ツ石ダムは二ツ石ダム展望台、二ツ石橋の2地点とし、眺望点を増やします。
	③周遊ルート、緑の道については歩いていく過程での時系列的な観点で見え方を調査、予測及び評価すること。 【山本委員】		歩いていく過程での時系列的な観点で、切込焼記念館及び澄川橋を主要な眺望点として選定します。
人と自然との触れ合いの活動の場	①ふるさと緑の道は「静寂と戯れの散策ができる」場であるため、静寂が保てるような環境になるのか評価すること。 【永幡委員】 P. 259		ふるさと緑の道は、静寂が保てるような環境になるか評価するため、騒音について調査を行います。
放射線の量	①放射性物質の調査については、風力発電機を設置する予定地の20メートル間隔で5か所程度、地表から1センチメートルの土壌の測定を行うこと。 【石井委員】 P. 118		土壌の放射性物質濃度の調査に当たっては、風力発電設備の設置予定箇所及び新設又は拡幅する道路を含む調査地点を設定し、地表から1センチメートルの土壌を採取した上で、測定を行います。

「(仮称)宮城西部風力発電事業 計画段階環境配慮書」に対する9月17日技術審査会の指摘事項と事業者回答 (5/5)

項目	審査会当日意見 (※Pは方法書のページ番号)	文書意見	事業者回答 (※Pは添付資料ページ番号)
放射線の量	②工事に伴い放射性物質を含んだ土壌を飛散又は流出させないよう十分配慮すること。 【石井委員】		工事に伴い放射性物質を含んだ土壌を飛散又は流出させないよう十分配慮いたします。
その他	①第3.2-12で番号③だけ交通量の推定が多いため、推定方法を確認すること。 【丸尾委員】 P.132		平成27年度全国道路・街路交通情勢調査の箇所別基本表を確認したところ、当該区間については、推定調査区間となっており、H22の当該区間交通量に、周辺代表区間のH27交通量とH22交通量の比を乗じて算出しています。 なお、過去調査における当該区間交通量(昼間12時間)の推移は以下の通りとなっています。 H9:1526、H11:2067、H17:2042、H22:1494、H27:1627